

平成29年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、次世代の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。
	2 地域に信頼される伝統ある進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割以下)

重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次世代の社会を担う女性を育成する。
	2 SSHや骨太リーダー育成事業などの取組を活かし、質の高い授業を行い、学力を向上させる。
	3 きめ細かな進路指導や学習指導に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。
	4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成することにより、地域に信頼される学校づくりを行う。

出席者	学校関係者 8名 生徒 2名
-----	-------------------

学校自己評価

平成29年度目標

平成29年度評価(3月23日現在)

番号	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度の課題と改善策
1	◇勉強だけではなく、部活動・委員会・生徒会活動、学校行事に積極的に取り組む生徒が多い。知の基盤形成を図りながら、部活動では運動部・文化部ともに大きな成果をあげている。また、地域の施設や学校での奉仕活動、海外生徒派遣を実施し、地域から海外まで幅広く教育活動を展開している。さらに高い志や使命感を育み、次世代をリードする生徒を育成する必要がある。	次世代をリードする生徒の育成	①地域の高齢者施設や小学校・中学校等で、福祉活動や児童・生徒支援等を行い、社会的資源として、地域から信頼される学校づくりを推進する。 ②ニュージーランド姉妹校派遣事業、県立高校グローバルリーダー育成プロジェクト派遣事業(ハーバードMIT研修)等に生徒を参加させ、国際性を育む。 ③さらなる活発な部活動を推進する。	①生徒に地域の施設や学校等でリーダー体験をさせることができたか。地域社会に貢献する大切さを意識付けできたか。 ②海外派遣に参加した生徒がリーダーシップを発揮し活躍したか。 ②全校生徒の国際性を育むため、海外派遣の報告会を実施し、他の生徒への動機付けが図れたか。生徒の意識の変容が見られたか。 ③関東大会以上のレベルに、出場・出品できたか。(目標:10部活動)	①中学生の夏休み学習教室の指導者として33名を派遣。小学生の学習支援や水泳教室でラククロス部・水泳部がリーダー体験。2年生149名は、保育・福祉施設でボランティア活動を行い地域に貢献した。 ②ニュージーランド海外体験事業に18名、グローバルリーダー育成プロジェクトに3名が参加。学校見学会や全校報告会で体験報告し、全校生徒の意識高揚を図るとともに、様々なところでリーダーシップを発揮している。 ③関東大会以上の大会に8部活動が出場した。(全国5、関東3)	A	・現在の地域連携の継続と積極的な展開で、地域のニーズに応える学校づくりを推進する。地域社会貢献の大切さを生徒に意識させる。 ・行事・部活動・ボランティア活動等を通じて、リーダーとしての素養を高める。
2	◇昨年度、SSHの第1期は任期満了となり、2期目の申請を行った。全国発表会でポスター発表賞を受賞するなどの成果を得てきたが、残念ながら認可を得ることはできなかった。経過措置の今年度、第2期の認可を獲得することが最大の課題である。 ◇骨太リーダー育成リベラルアーツ事業、学校間ネットワーク等を活用して、生徒の思考力・判断力・表現力等を向上させる取組の研究を進める必要がある。	SSHを活用し学校組織力の向上 思考力・判断力・表現力等を高める授業力の向上	①SSH第2期認可に向けて、理念・目標・具体的な取組内容を明確にして申請し、再指定を獲得する。 ①探究の深化への継続的研究・研修を実施し、新学習指導要領への対応を進める。 ②骨太リーダー育成リベラルアーツ事業における校内の取組を充実させる。 ③生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。	①分掌・委員会等が、SSH認可に向けて活性化したか。学校全体が組織的に取り組んだか。 ①教職員の理解を促進する先進校視察、校内研修などを実施することができたか。 ②指定を受けた事業を有効活用することができたか。生徒の感想等から、生徒の意識の変容が見られたか。 ③授業公開や研究協議により教員の授業研究を進めることができたか。授業アンケートにより、生徒の変容が見られたか。	①SSH推進事務局を組織改編し、組織的な取組を展開する基盤を築いた。第2期SSHの申請を行い採択結果待ちの状況。保有備品の情報共有で物品の積極的な利用を図った。 ①骨太リーダーや未来学び事業を活用し、先進校視察(5校)や外部の教員研修に参加し授業力向上に努めた。「主体的・対話的で深い学び」と学習評価についての研修会を開催した(10月)。 ②骨太リーダー育成事業の行事に生徒が積極的に参加した。参加した生徒による報告会を実施し全校生徒の意識を高めた。 ③授業に意欲的に取り組んでいると回答した生徒が94%で学習への意識が高い。	B A	・再指定を受けた場合、学校全体で協力して行う体制を確立させ、SSHの取組を発展させる。 ・新学習指導要領に対応するためにも主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。 ・骨太で品格あるリーダーを育成する。 ・探究活動の授業等をとおして、思考力・判断力・表現力等を育成する。
3	◇様々な進路行事や生徒面談などとおして、女子校のニーズに合わせたきめ細かい進路指導を行っている。昨年度は一昨年度と比べて、国公立大学やG-MARCHの合格者数の増加などの成果を得た。一方で、評議員・懇話会委員等からはさらなる進学実績の向上が望まれている。生徒一人一人の第一志望の進路を実現するため、組織的・効果的に取り組む必要がある。	進学実績の向上	①進路データ、適性等を踏まえたきめ細かい指導や補習を実施し、生徒の第一志望の進路実現を目指し、進学実績を向上させる。 ②進路実現に必要な学力を身につけさせるため、教育課程の継続的な検討と編成を行う。 ③新しい大学入試システムへの継続的調査・研究を行う。	①進路指導目標の実現に向け十分な研究や取組ができたか。 ①2017センター試験結果と比べ向上したか。 ①合格実績目標値(現役) 国公立大学60名・早慶上理ICU30名・G-MARCH100名以上 ②③教育課程の検討は進んだか。また、高大接続を見通した進路指導の体系化と方法論を精査できたか。	①模試分析会を計画的に実施し、学力向上検討委員会と連携して、共通理解を図り、生徒の学力を分析し、学力向上に努めた。 ①センター試験結果は、昨年度と比べ6科目で得点が向上した。その他の科目は包括的な検討を行う必要がある。 ①現役大学合格者数、国公立38名・早慶上理ICU8名、G-MARCH62名(3/23現在) ②③WG会議、企画委員会で、大学入試改革、新学習指導要領に対応する検討を開始。研修会を実施して教職員の理解を深め、年度末に対応の方向性を決定した。	B	・第1志望の進路を実現させるための学習指導方法の工夫改善を行う。 ・校内体制を整備し、大学入試改革に対応した進路指導を行う。 ・大学入試改革の研修会に積極的に参加し、効果的な対策を検討する。
4	◇伝統ある熊女の生徒としての品格を身に付け、自らを律した行動ができるように生徒指導を行っている。全教職員の共通理解のもと、生活指導や心のケア等の対応を充実させる必要がある。 ◇中学校や塾で行う出前学校説明会・相談会が例年40回程度ある。地域と連携しながら熊女の魅力を発信するとともに、入学者選抜の倍率に反映されるように効果的な広報活動を行う。	全教職員協力による生徒指導、心のケア等の充実 効果的な広報活動の実践	①全教職員による組織的な生活指導で、伝統ある熊女生として品格を身につけさせる。 ②SC・SSWを活用し、専門機関と連携を行うとともに、校内支援委員会を定期的に開催し、生徒情報の共有と適切な支援を行う。 ①中学校・塾に積極的な広報活動を行う。 ②学校説明会・見学会等の内容を充実させ、効果的な広報活動を行う。 ③学校ホームページのリニューアルを図り、更新回数を増やし最新の情報を発信する。	①全教職員・PTAの協力による挨拶・身だしなみ・登校・完全下校指導を行う。 ②個々の生徒に対し教職員の共通理解が図られ、様々な生徒への対応に取り組めたか。専門機関との連携を深めることができたか。 ①中学校・塾に効果的な訪問ができたか。 ②学校説明会等で工夫が図られたか。入学者選抜の倍率が向上したか。(目標1.30倍) ③学校ホームページへのアクセス数が昨年度と同程度維持できたか。	①計画的に挨拶・身だしなみ・登校・完全下校指導を行った。大多数の生徒が気持ちよい挨拶をすることができた。 ②SC・SSWを活用し、専門機関との連携で、適切な指導を行った。校内支援委員会・養護教諭・担任が連携し生徒の心の支援を行った。 ①学校案内に卒業生特集ページを加え充実させた。中学生の志願決定時期(10月)までに中学校・塾訪問を実施した。 ②学校説明会・見学会で、生徒の体験報告等を行い本校の魅力を中学生に周知した。学校説明会・見学会・外部説明会等への参加者も増加し、中学校主催高校説明会、上級学校訪問等の依頼件数が昨年比に比べ大幅に増加した。12/15希望調査1.16倍(昨年比+0.04p) ③HPは昨年同様1日平均約1,885件のアクセスがあった。(H28:約1,900件)	A A	・本校の生徒として品格ある整容指導と挨拶励行の啓蒙指導を実施する。 ・専門機関と継続した連携で、きめ細かな生徒支援を行う。 ・学校(女子校)の魅力を発信する広報活動を工夫改善して実施する。 ・地域に根ざした学校づくりを推進する。 ・HPの効果的な活用で、学校の情報を周知する。

学校関係者評価

実施日 平成30年2月9日

学校関係者からの意見・要望・評価等

・中学校では高校生から勉強の指導や悩み相談、小学校では学力向上の学習教室や水泳教室においてマンツーマンでのきめ細かな指導をしていただき、大変好評であった。とても感謝している。 ・小学校では英語教育に力を入れ始めている。英語関係の部活動の生徒に指導してもらい連携を図りたい。 ・地域との連携は、信頼される学校づくり、効果的な広報活動に繋がる。
・SSHの取組について、校内でしっかりと分析し、学校を活性化する取組に繋げていくことが大切である。 ・新大学入試の試行調査(プレテスト)で示された問題からも予測されるように、これからの時代に求められる思考力・判断力・表現力等を向上させる新たな対策が必要である。
・熊谷女子高校は、勉強・部活動・学校行事に、ともに頑張る校風がある。充実した高校生活を送り、努力の結果、推薦入学等を活用して進学することも、希望する進路を実現する一つの方法である。 ・校舎内の様々な場所で、生徒の学習しやすい環境が整っている。学習室もきれいに整備されている。
・熊谷女子高校の生徒は、礼儀正しく挨拶をしっかりと行うことができる。品格ある生徒の育成ができています。 ・広報活動において、番号1で取り組んでいる学習支援やボランティア活動は大変効果的である。学習支援活動をしてもらったこともあり、熊女への進学希望者が増えている。 ・地域でも高い評価を得ている。伝統校であるので、本当に受け継いでいく伝統が何なのかを整理する必要があるのではないかと。